

- 有識者会議では、JR東海の環境保全に関する取組みに対して、科学的・客観的観点から議論を行うことにより、JR東海に対して指導・助言等を行うこととする。
- 今後行う論点整理に向け、まずは、有識者会議において議論すべき内容や課題などについて各委員に意見等を求めたところ、以下のとおり。

【徳永委員】

- トンネル掘削による地下水への影響を評価する数値解析は不確実性を持つ。そのため、数値解析に過度に依存した議論には留意する必要がある。一方、数値解析の結果と現地計測データを総合的に評価することで理解が深まるという点も認識しておく必要がある。

【大東委員】

- 有識者会議において、静岡県からの要望事項に対して科学的・客観的観点から回答を出すことが必要ではないか。
- 懸念される生態系へのリスクの評価と事前のリスク対応が地元の方々の安心感につながるため、その検討をしてはどうか。
- 有識者会議における議論を進めるにあたっては、トンネル掘削等の工事により地下水や表流水の状態が変化し、水生・湿地性植物、水生昆虫、魚類等への影響が出る可能性があることを議論の前提とすべきではないか。
- 大きな論点の一つは表流水への影響であり、トンネル掘削等の工事が地表面を流れる沢の流量にどのような影響を及ぼすのかを明らかにしてはどうか。その際、状態が変化するであろう地下水と沢などの表流水がどのように繋がっているかを知るための情報を整理することが課題ではないか。
- 適切なモニタリング計画を立てることができるよう、希少種が存在するなどの重要な沢を抽出・選定してはどうか。

【丸井委員】

- 生物多様性などの環境への影響を議論するには、トンネル掘削により大井川上流の地盤環境（特に小さい沢の水）に与える影響について知ることが必要ではないか。
- トンネル掘削に伴う地下水位の変化に関する解析結果が得られているが、環境の保全に関して具体的に議論を行うにあたり十分かどうか議論してはどうか。その際、他に取得すべきデータがあるか検討してはどうか。
- 大井川に戻されるトンネル湧水の水質や水温について問題が無いか議論してはどうか。
- 生物多様性の問題は小河川の沢枯れ問題と同じと理解してよいか（河川水のほかに議論すべきことはないか）。
- トンネル掘削の影響は上流域の小河川ほど大きな影響を受ける可能性があるが、上流域の小河川は本当に涸れるのか議論してはどうか。得られている解析結果は深部地下水の解析であるので、浅層の土壌水の動きを見るには不十分でないか。また、ほかに現場で取るべきデータやエビデンスはないか。
- 有識者会議において議論する対象は大井川上流域で問題ないか。
- 工事による環境影響を評価するにあたり、地球温暖化の影響は排除できるのか議論してはどうか。
- 静岡県からは47項目の懸念事項が示されているが、これを議論すれば十分か。

【中村委員】

- トンネル掘削による水への影響、発生土置き場による影響、生態系などの環境への影響の有無に加え、環境への影響がある場合はどのような回避・低減策等あるのかについて議論してはどうか。その際、まずはトンネル掘削等の工事による水への影響について議論してはどうか。
- トンネル掘削区間の上流域ならびに下流域の表流水、地下水においてどの程度影響があるのか見当をつけておかないと生態系などの環境に関する議論ができないのではないか。
- 上記内容が明らかになった段階で、トンネル掘削等の工事により環境への影響があった場合の対策という視点で検討してはどうか。
- 発生土について、大井川への環境影響について確認してはどうか。河岸斜面への大量の盛土は、河道の変動に伴う崩壊もしくは侵食の心配はないか。

【辻本委員】

- 計画・設計上の認識（before after）だけでなく、工事途中や供用の段階についてももしっかり環境影響を認識すべき。→モニタリング（データの公開性とその結果のフィードバック）の重要性。
- 論点整理するにあたっては、何が問題となっているのかについて静岡県専門部会から論点を聞く場を設けてはどうか。環境の問題には普遍的な課題とともに地域の問題があり、後者は地元でないとなかなかわからないところがあるから。
- 有識者会議において、多岐にわたる論点に対して一つ一つ解決策や方針を与えるよりは、これらが科学的な観点である「生物多様性国家戦略」の考え方に沿ったものであるかどうかを整理してはどうか。環境の認識が「アセス」から「生物多様性保全」にまで「進化」していることを頭に入れてかからないといけない（アセスの仕組み自体も「進化」してきている）のではないか。

【保高委員】

- 有識者会議において論点整理や議論をするにあたり、当該地域の現況や利活用状況を知ることが重要である。現況に関する調査結果等のご提示は頂けると思うが、それ以外にも当該地域の方や利用者、自治体、管理団体など、ステークホルダーの方々にヒアリングをして、当該地域についての情報や環境の保全に関する意見（懸念点や工事後の姿）を出してもらうのはどうか。
- 本会議における議論対象や進め方について、事務局で整理をしていただくことになると思うが、幅広に情報や意見を収集して頂いた上で、論点整理をお願いする（最初の1～2回は、議論の範囲を絞り込みすぎない方がよいのではないかと考える）。

【板井委員】

1. 有識者会議開催にあたって

本会議の開催の趣旨がまだ示されてはいませんが、その趣旨は全水資源に関する部会の中間報告で附記された「トンネル掘削に伴う上流域での地下水位の低下、河川流量の減少、水温・水質の変化などにより生態系への影響が想定されることから、その影響の回避・低減策等については、静岡県で行われている県専門部会での議論も踏まえ、今後、有識者会議の場でも議論することを予定している。」JR東海においては、まずは、関連事例や専門家等の意見を踏まえながら、環境保全についての意識醸成を図り、事業主体として行い得る地域が納得できる回避・低減策等を検討すべきである。」となることと存じます。

従いまして、本有識者会議名を前有識者会議と区別するための適切な名称とされることを望みます。

2. 委員会の構成について

今回国交省から示された本有識者会議の構成委員案では8名の委員が予定されています。このうち生態系あるいはその構成生物群を専門とするものは2名しかおりません。本会議で議論されるのが最終的には「生態系への影響」に関してであり、生態系が動植物の多くの分類群を含み、それぞれ専門性が高いところから、現委員の専門以外の分類群（昆虫，鳥類，両生は虫類など）からも委員を補充されることを希望します。

3. WEB参加について

私は、個人的な事情により会議への参加は基本的にはWEB参加とさせていただきますが、そのため会議開催にあたっては事前に資料を配布いただきたくお願いします。

【増澤委員】

- トンネル掘削工事による水への影響を議論した後に、生態系などの自然環境をどのように復元・再生させ、周囲の自然の状況（潜在自然植生・原植生）に戻すことができるか議論してはどうか。
- その際、高山帯の自然環境は静岡県民や国民にとっての関心事であることから、自然環境が改変される可能性がある場合は、それに対する対応が一般の方々も理解できるようにすることも重要ではないか。